

# 水稻除草剤の上手な使い方

～5つのポイントを守って除草効果を高めましょう！！～

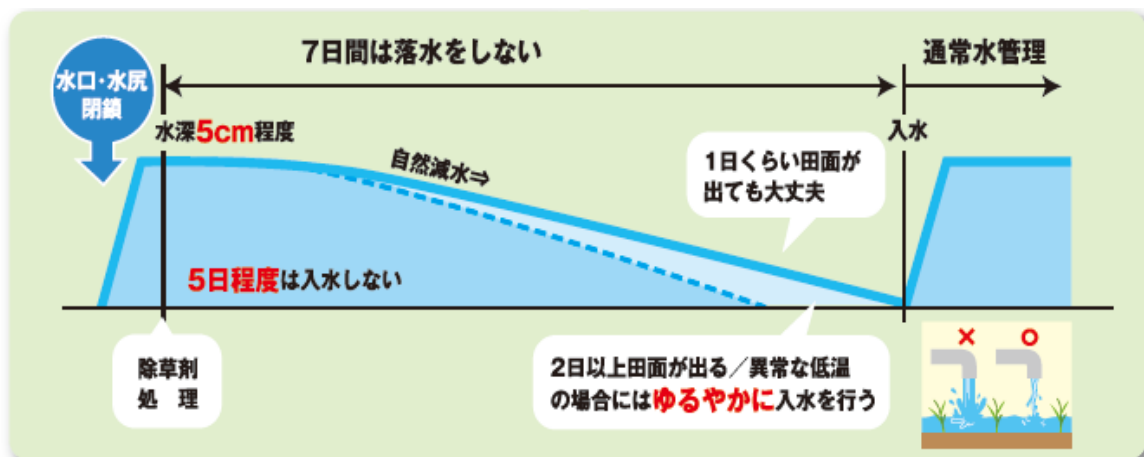
## 1、代かき、あぜ塗は丁寧に！

- 田面の凹凸がなくなり均平になるよう耕起・代かきは丁寧にこなう。
- 小動物穴や崩れがないよう丁寧に畦塗し、漏水防止に努める。
- 漏水しやすい場合は、あぜ波板やシートなどで補強する。



## 2、水管理をしっかりと！

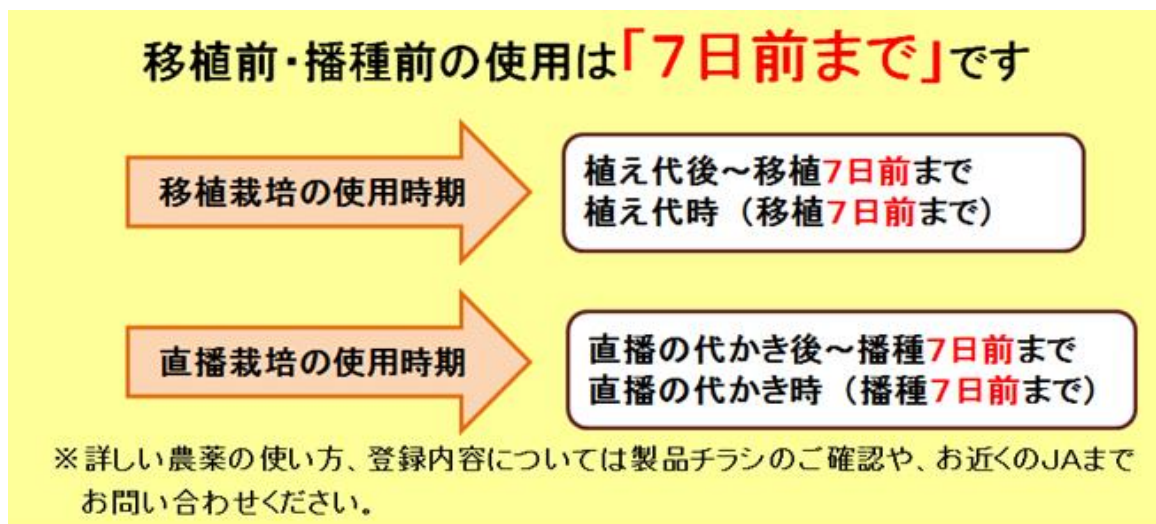
- 水口、水尻をしっかり止め、**5cm**程度の水深を確保する。
- 除草剤散布後の**7日間**は落水やかけ流しをせず、入水もできるだけ控える。
- 入水が必要な場合は、ゆるやかに入水する。



### 3、適期に散布！

- 雑草葉齢に合わせて処理適期に散布する。
- 表層はく離やアオミドロが発生する前に散布する。(特にジャンボ剤、豆つぶ剤、フロアブル剤)

#### 【初期除草剤の使用時期に注意】

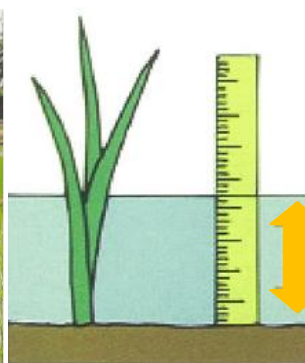


### 4、雑草が多い圃場では体系処理がおすすめ！

- 毎年雑草が問題となる圃場や、代かきから田植えまでの期間が長くなる場合は **初期剤 + 一発処理剤** や **一発処理剤 + 後期剤** の体系処理をおこなう。

### 5、ジャンボ剤、豆つぶ剤、フロアブル剤のポイント！

- 薬がうまく拡がるよう、水はたっぷり多め（水深5～7cmくらい）に。
- 表層はく離、アオミドロが発生した場合は、雨上がりなど藻を落ち着かせてから散布する。
- 水田の水がかたよるほどの強風が予想される場合は、散布を避ける。



**5～7cmのたっぷり多めの水を！水深を測定できる道具を使い、丁寧な水管理をお願いします！！**

(全農新潟県本部 肥料農薬部 肥料農薬推進課)